

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0493600019
法人名	社団医療法人 啓愛会
事業所名	認知症対応型共同生活 GHはまゆり
所在地	宮城県本吉郡南三陸町志津川字袖浜255番地
自己評価作成日	平成 25年 11月 25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成25年12月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自施設がある南三陸町は現在、震災で田畑や地域交流の場等のコミュニティが減少し、多くの住民が仮設住宅に閉じこもりがちになっていることから、生活不活発病予防に力を注いでいる。当事業所もその取り組みに賛同し、町の包括支援センターから情報を得ながら地域の力になれるよう又、施設のご利用者も閉じこもりにならないよう地域に出かけている。主な取り組みとして他市町村での仮設住宅への訪問や健康いきいき教室への参加、その場で使用される看板や賞状書き等の筆入れ、作品作りを行う。又宮城大学、一関第一高校のボランティアの学生との野菜作りを地元の方々から田畑の提供を受け、地域交流へ参加し生活不活発病予防に力を注いでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

かつては志津川の街を一望できた高台に在る事業所は大津波の被害は免れたものの隣接する老人介護保険施設共々、半年間同法人の福祉施設(岩手県)で避難生活をした。周りの環境が激変し不便を強いられている現状の中、「ホームのとびらを明け、地域に出ていく。又地域の皆さんに来て頂く」を目標達成計画に挙げ、町・地域包括支援センターとも協力し地域との交流を着々と実践している。隣町(登米市)に在る仮設住宅を入居者全員で訪問し旧知の住民との再会を喜び合ったり、地域の子もたちとのホームでの花火大会はじめ、様々な地域貢献の努力を評価したい。理念にそって、本人の自己決定を尊重するケア等を実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2 自己評価および外部評価結果(事業所名 グループホームはまゆり)「ユニット名 グループホームはまゆり 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を作り、全職員の目の届く場所に貼りだし、共有し、実践に繋げている。進むべき方向に迷った時は常に指針となるよう意識している。	開設以来の4つの理念に基づき、一日でも長く入居者と関わり続け、笑顔で心豊かに過ごして頂きたいと願い、自己決定や選択の自由を尊重したケアを心がけている。	職員は理念を理解し共有して実践しているが、開設以来理念の見直しはなされていない。事業所の現状に合っているか、振り返りの機会を設けて頂きたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	はまゆり便りを区長さんをお願いして町内に配布している。地域包括支援センターとの交流が増え、様々な地域行事、取り組みに参加するようになっている。また、地域包括支援センターから看板作成をお願いされ、地域に貢献している。	各家庭に季刊誌80部配布している。地域の健康福祉祭りに参加し、事業所の夏祭り・花火大会・芋煮会に来て頂いている。入居者が看板や表彰状の筆入れを依頼される事もあり、事業所は地域からも頼りにされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	集会所にて地域の方々、施設利用者が一緒になって勉強会や各行事に参加し、認知症に対する理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区長、民生委員、福祉課の職員、包括の職員、家族を交え、町の情報や行事をもらい、参加している。	福祉課と包括支援センター職員(毎回)・行政区長・民生児童委員・家族で構成される会議は4回開催されている。意見から体調不良時の対応について家族の不安解消の為、講師を招いて「ショックポジション」について勉強した。	運営推進会議の意義を振り返り、今後は概ね2カ月毎の開催をお願いしたい。会議のテーマによっては、消防署職員や警察等に参加要請するのも一考である。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域行事や町主催の研修等に参加し、ケアサービスに反映できるよう積極的に取り組んでいる。	町・地域包括支援センターと事業所間のみならず、地域の現状に合わせて地域を含めた三者一体の協力関係が築かれている。生活不活発病対策協力や、仮設住宅での交流会には入居者全員で参加し笑顔が見られた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	フィジカル、スピーチ、ドラッグロックはしない事を心掛けて日々ケアを行っている。家族にも状況を伝え意向も聞きながら話し合っている。頻繁に外に出たがる利用者には一緒に付き添い散歩行っている。	外部研修と内部研修で、身体拘束に当たる内容を職員は理解している。本人の外出傾向とその原因を把握して拘束することなく外出を見守り、隣接する施設と地域住民の協力も得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加し職員に報告している。ストレスを貯めないように休憩時間、業務をずらして対応行っている。30条の通報の義務も考慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、学ぶ機会を持っている。また、自立支援事業を利用している利用者があり、来設時に相談行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、ご家族に理解して頂くまで説明をし、退所後も不安にならない様に協力する事を説明し、理解を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者と家族の思いや話し合いを大切に思っており、面会時に生活状況を話し、家族の意見も大切にシケアに反映している。	週2～3回来訪する家族が多い。家族の意向から外出・体操・清掃等本人の出来る力を生かす日常に取り組んでいる。家族から新造した船で再出発できる喜びを報告されるなど、事業所との信頼関係が築かれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング 職員会議の際に情報や意見を聞き話し合い、ケアに反映するようにしている。又、係ごとに集まり話し合い行っている。	教育・外出支援・環境整備等7つの委員会を設け、職員は本人の立場に立った支援について話し合っている。自分で衣類の整理をしている方と一緒に、衣類を取り出しやすく工夫をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則があり労働時間もオーバーしないように調整はしている。定期的昇給もあり年2回の健康診断や資格取得のバックアップもある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	教育委員会主催の内部研修、外部研修に積極的に参加している。また、法人内で行う研修へも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に入会しており、県北支部、気仙沼地区での勉強会、情報交換や交流、地域連携会を立ち上げ、親睦を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申請の相談があった際は本人も来設をお願いし、ホームの様子を見て頂き少しでも不安解消につながるようにしている。独居の方には送迎し限りな時間を過ごして頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申請後、自宅訪問し施設の様子や家族、本人が困っている事を聞いて対応方法も話し合っている。又、入居後は面会后必ず家族と話し合うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時等に早急に必要であると思われるサービスを紹介したり、同系列の施設のサービスを紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、無理なく出来る家事仕事等の手伝いを頂く事を継続している。常に色々な事を教えて頂き参考にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との情報交換は大切であり、面会時のみならず電話、会議等で情報交換しよい関係を築いて聞けるよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外に職場の同僚や同級生が面会に来ってくれる他に、手紙や電話のやり取りも協力している。ドライブレクとして利用者を連れて自宅訪問している。	外泊や自宅で家族と過ごす時間を大切にし運動会や結婚式に出席したり、元同僚が複数で来訪し旧交を深めている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同志活発であり、行動パターンも理解しているようである。いつもより静かだったり落ち着きなかったりすると心配する様子見られる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退所しても面会に行ったり、次のサービス利用の相談に乗ったりしている。今後も家族との関係を友好的に継続して行きたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で出てきた言葉や表情を汲み取り行事に組み入れたり個別で外出したりしている。	ふともらした「ボーリングをしたい」という言葉からホーム内をボーリング場の雰囲気工夫し、スコアをつけてゲームを楽しんだ。誕生日に大きいケーキを自分で注文(家族了解済)し、入居者にも振る舞う等、個別の支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から得た馴染みの暮らし方については、センター方式に追記し、ケアに役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々のペースで過ごして頂いているが、いつもと違うと感じた際は申し送りし把握している。又、介助に対しても、本人の出来る可能性のあるものは時間がかかっても行って頂くよう職員間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を汲み取り、アセスメントを行っている。その段階で職員とカンファレンスを行い、本人本位の介護計画を作成している。	ひもときシートやセンター方式のシート記録等参考にプランを作成している。家族参加の担当者会議で意向や希望を聞き話し合っている。楽しみを提供したいと家族の申し出があり、所有する畑でブルーベリー狩りを計画、実施した。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録係を決め記録について勉強や記録内容を検討している。又、いつもと違うと感じた事や訴えなどは必ず申し送りノートに記録し実践に反映するよう頑張っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族、利用者の希望に応じ随時レク活動、外出支援、病院受診等行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館やスーパー等へ出かけたり、行事等で地域の集会所に行ったり、地域参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と相談し希望に沿って行っている。現在は同法人の医師が岩手県水沢市より、訪問診療に来ている。緊急時には同施設の医師の協力が得られる。	状態によっては地域の医療を受けているが、避難生活していた時の同法人の医師が定期的に週1回往診している。歯科と、家族付き添いの眼科受診では報告を受け、受診記録に記載している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	いつもと違うと感じた際は必ず申し送りや病院連絡し、早期発見早期受診に努めている。介護職での判断が難しい場合は、必ず医療職に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に面会に行き不安解消に努め、家族の相談相手になったりしている。病院での情報も面会時や電話で交換している。医師からの症状説明等にも家族の許可を得て同席させていただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについては前向きな方向で検討している最中である。現在主治医の方針やご家族の意見を聞きながら、同法人の病院へという流れの方が大きい。	前向きに看取りを考えていきたい考えはあるが、ホームで看取る場合には、看取りに関する課題をクリアしていかなければならない現状である。	看取りに関する事業所で出来る事、出来ない事の方針を明確にし、家族の意向を確認し同意を得る。この一連の内容を成文化し、出来るだけ早い段階で家族と話し合っていけるよう期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応を定期的にシミュレーションし評価し緊急時に備え訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	同敷地内の老人保健施設との避難訓練。地域住民との避難訓練を行っている。	事業所単独の訓練と、隣接する施設と合同で(夜間想定)実施し地域の協力も得られている。備品・備蓄は施設に保管されているものを共有している。尚、全職員の初期訓練が経験できる工夫も望みたい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のプライドを傷つけないよう声かけ言葉遣い行動等一人一人に対し工夫している。居室に入って排泄介助をしたり、会話をする際はドアを閉めて対応している。また、衣類の整容等に乱れがないよう注意を払っている。	理念に「利用者の尊厳を守り、人権を擁護しプライバシーを保護します」と掲げ、本人の行動に対し頭ごなしに言わない。傷つけない言葉かけをする。また、排泄時や入浴時はプライバシーへの配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望に沿えるよう利用者からの意見・訴え・希望には耳を傾け、レクリエーション行事に反映している。また、「特になし」という利用者にもこちらから働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	リビングで過ごしたり、居室にいる時間が少し長くても、本人の希望に沿うよう心掛けている。また、食事の際は、その時の状況により和室で静かにゆっくりと自分のペースで取って頂いたりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	生活歴や個人の好みに合わせ実践している。オシャレや身だしなみに職員が気づき声掛けすると喜ばれる。また、父の日や母の日や敬老会等の行事の時には盛装し、楽しんで参加している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に好みや食べたいものを聞き、日々のメニューに反映している。また、利用者にもキッチンに立って頂き、食事の支度や片付けの手伝いを行って頂いている。	出来る方にはもてる力を発揮して頂き、職員と協働で食事の準備をしている。車椅子の方も下膳をしていた。職員は朝と晩は一緒に同じものを食べているが、昼食は共にせず静かな食事風景であった。	職員が入居者と昼の食事を共に摂り、和やかに楽しい食事時間を共有できる様、話し合いをお願いしたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	老健の管理栄養士に献立を見て頂き、栄養バランスカロリー等をチェックして頂いている。水分も制限ない限り一日1,000cc以上と取り決めて行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは誤嚥防止のみではなく大切なものとし職員全員が把握しており、毎食後一人一人に応じた見守り、介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗があったとしてもすぐにオムツ等にせず、トイレ誘導をしたり、排泄チェック表を使用し、排泄パターンを把握している。	布パンツを使用している方が7名で、自立している方が多い。おむつは使用せず、全員トイレでの排泄を支援している。おむつ使用のないケアは、職員の力量が発揮されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	タンパク質の過剰摂取に注意し、食物繊維の多い物を取り入れ、水分補給を促している。また、管理栄養士とも相談している。おやつ時間にラジオ体操を実践し、便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日は決まっているが、本人の入りたい時間に入浴して頂いている。入浴拒否があるときは日にちを変えたり声かけの工夫等を話し合い、入って頂けるように心がけている。車椅子の利用者も安心して入浴できるように支援している。	週2~3回本人が希望する時間に入浴し、強く拒否する入居者はいない。男性職員介助に安心感を持つ方もいる。車椅子の方には手すりの工夫と、浴槽に椅子を入れて座位の安定を確保している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の習慣を大切に、日中の活動量や室温、寝具調整し快眠できる環境を整えるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に薬情書をカルテと申し送りノートにはさんでおり、いつでも確認できるようにしている。また、変更時は申し送り行い、周知している。服薬チェック表も活用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみ、食事の盛り付け、居室掃除の手伝いなどを頂き、自ら行ってくれている。又、自宅との落差が少しでも減少するよう居室には嗜好品、馴染みの物を置くようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援係りを決め、毎月の外出計画の作成をしている。2週間に1回は外出の機会を設けており、その他にも利用者から「買い物に行きたい」等と希望があれば、個別に応じしている。家族の協力もあり、外出・外泊する利用者もいる。	季節に合わせた全員での外出の他に、家族の意向を取り入れたブルーベリー狩り・日常的な外出やドライブ・地域の花植栽・じゃがいも堀り等に出かけている。晴れた日には庭で海を眺めながらお茶を飲んだり、ベンチで外気浴をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は、施設で管理している。物品購入は家族とも相談しながら支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族、知人への手紙や電話での取り次ぎはもちろんのこと、ボランティア団体へのお礼状等人と人との繋がりは大切であるので、協力はしている。携帯電話を活用している利用者もおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂には季節にあった飾りを掲示したり、行事の写真は個々に印刷し、居室や下駄箱へ掲示している。空調にも気を使い、空気清浄機を使用した他に換気等も行っている。	町民歌やクリスマス飾りのある居間続きの小上がりで、外部評価の話し合いをしながら入居者の終日の様子を拝見した。外出・入居者同士の弾んだお喋り・体操・家族の面会や居室で過ごす等、居心地の良い空間で思い思いに過ごしていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファの配置や和室を活用する事で、利用者同士が話を出来たり、面会や趣味の場として使用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し、使い慣れたものを持ち込んでもらい、ご本人の希望に沿った生活ができるよう支援している。位牌や仏壇がその一つであり、朝に水、お茶を上げて頂いている。また、好きなものを掲示できるようにボードを設置している。	馴染みの家具やテレビ・自作の手芸品・家族写真・モップが置かれていたり、仏壇に供え物を大切にしている様子が伺える。異食がある方は必要最小限のものが置かれている。居室も昼夜一定温度に保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人が混乱しないように居室、トイレ、洗面所にわかりやすく目印を付けている。部屋を忘れる利用者には目印となる物を付けている。通路は歩行の妨げにならないよう環境整備に努めている。		